体育科学習指導案

令和　　年　月　日（　）第　校時
第６学年１組　　（於：体育館）
指　導　者：

１　単元名　　器械運動「マット運動」

２　指導の目標

スムーズな連続技をするために自己の能力に適した構成を考え、課題解決のための場を選んで、進んで練習に取り組むことができる。

３　教材観

「器械運動」は、器械・器具を使った「技」に取り組んだり、それを達成したりしたときに楽しさや喜びを味わうことができる運動領域である。また、より困難な条件の下でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりする楽しさや喜びがある。

マット運動は、回転する技や倒立する技の中から自己の能力に適した技に易しい条件の下で新たに取り組んだり、それらの技がある程度正確にできるようにしたりするとともに、同じ技を繰り返したり、技を組み合わせて楽しむことができる運動である。

そこで本単元では、児童の意欲を高め楽しく学習に取り組めるように、課題解決的な活動を行っていきたい。教師が教え込むのではなく、ヒントを与え、児童が自力解決しながらマット運動に必要な基礎的な技能に気づき、習得する学習活動を行っていきたい。また、自己課題に合った練習をしたり、友達と教え合ったり助け合ったりしながら練習し、「新しい技ができるようになった」「スムーズに技がつなげられるようになった」「みんなで楽しく協力できた」という達成感を味わうために、次にあげるいくつかの場を用意した。

まず大きく２つ場に分けられる。（１）基礎的技能を身に付ける場（２）連続技を試す場、自己課題を見つける場である。（１）基礎的技能を身に付ける場ではさらに①前転・後転の場、②支持技の場、③側転・ロンダートの場、④回転技の場、⑤倒立前転の場の５種類に分けた。それぞれの場で、連続技を行うための基礎的な技能を練習する。その際、一単位時間の最初に確認した自己課題と照らし合わせながら、自分で必要な練習の場を選び、ペアで話し合いながら、または励まし合いながら練習を行っていく。

そして（２）連続技を試す場、自己の課題を見つける場で、今まで練習した基礎的な技をつなげていき、連続技を確認していく。また、連続技を行っていくことで、新たに見つかった課題を（１）に戻って練習を繰り返す。

このような基礎的な練習や発展的な練習を織り交ぜて行うことで、本単元の目標とするスムーズな連続技を実施することができると考える。

４　指導方針

（１）単元全体を通して次のような支援を行う。

・めあてを達成するために、ワークシートを使って自分の連続技の構成を確認できるようにする。

・めあて１を達成させるための場（基礎的技能を身に付ける場）と、めあて２を達成させるための場（連続技を試す場、自己課題を見つける場）を用意し、一つ一つの技や、技と技のつながりをいつも確認できるようにしておく。また、段階的な指導に当たることができるようにするために、ロイター板や跳び箱を使って児童の技能に合わせた指導を行っていく。

（２）「つかむ」の過程では、次のような支援を行う。

・連続技をするために、一つ一つの技を正確にできるようにしていく。そのためにそれぞれの技の確認ができるようにいくつかの場を用意し、自分で必要な場を選び、考えながら練習できるようにする。

・連続技をするために、それぞれの技を練習しながら連続技の構成を考えていく。そのために、ワークシートを配布し、いつでも技の確認や変更ができるようにしておく。また、安全面の配慮として、ワークシートは床ではなくいつもステージの上に置いておくように指示を出す。

・「めあて１」として今できる技を中心に練習を行い、一つ一つの技の完成度を上げていく。完成度を上げることで、技を成功させることだけではなく「スムーズなつなぎ」という課題に意識が持っていかせる。

（３）「追求する」の過程では、次のような支援を行う。

・連続技をする場面では、ただ技をつなげるのではなく、よりスムーズに流れるような構成を考え練習できるように指示を行う。

・毎時間発表会を行って、連続技の出来を確認する。また、何がよくて、何が課題なのかを児童に発表させることで確認させる。

（４）「まとめ」の過程では、次のような支援を行う。

・ペアによるシンクロマットを行い、相手に合わせた連続技の構成を考えるとともに、相手に合わせて技を行う気持ちを養わせる。自

分勝手ではなく相手のために正確で丁寧な技を行わせる。そうすることで、技能の伸びが期待される。
・シンクロマットの連続技構成は新たに「シンクロマットワークシート」を配布し、構成を考えさせる。
・練習した成果を披露するために、クラス全員の前で発表会を行う。

５　評価規準

関心・意欲・態度・・・器具の準備片付けなどを進んで協力して行い、お互いの技を観察、アドバイスをし合いながら意欲的に学習に取り組むことができる。また、器具・活動場所の安全に注意して学習できる。

思考・判断・・・・・・自己の状況を判断し、単元を通じてのねらいや毎時間のめあてが設定できる。連続技をするためにスムーズに技を行える構成を考えることができる。

技能・・・・・・・・・選択した場からマット運動に必要な基本的な技能を身につける。また、連続技のできばえを発表し合って器械運動の特性を味わう。

６　本時の学習（本時は全７時間中の３時間目）

（１）　目標

連続技をするために、一つ一つの技の特性を考え、スムーズに技をつなげるための構成を考える。

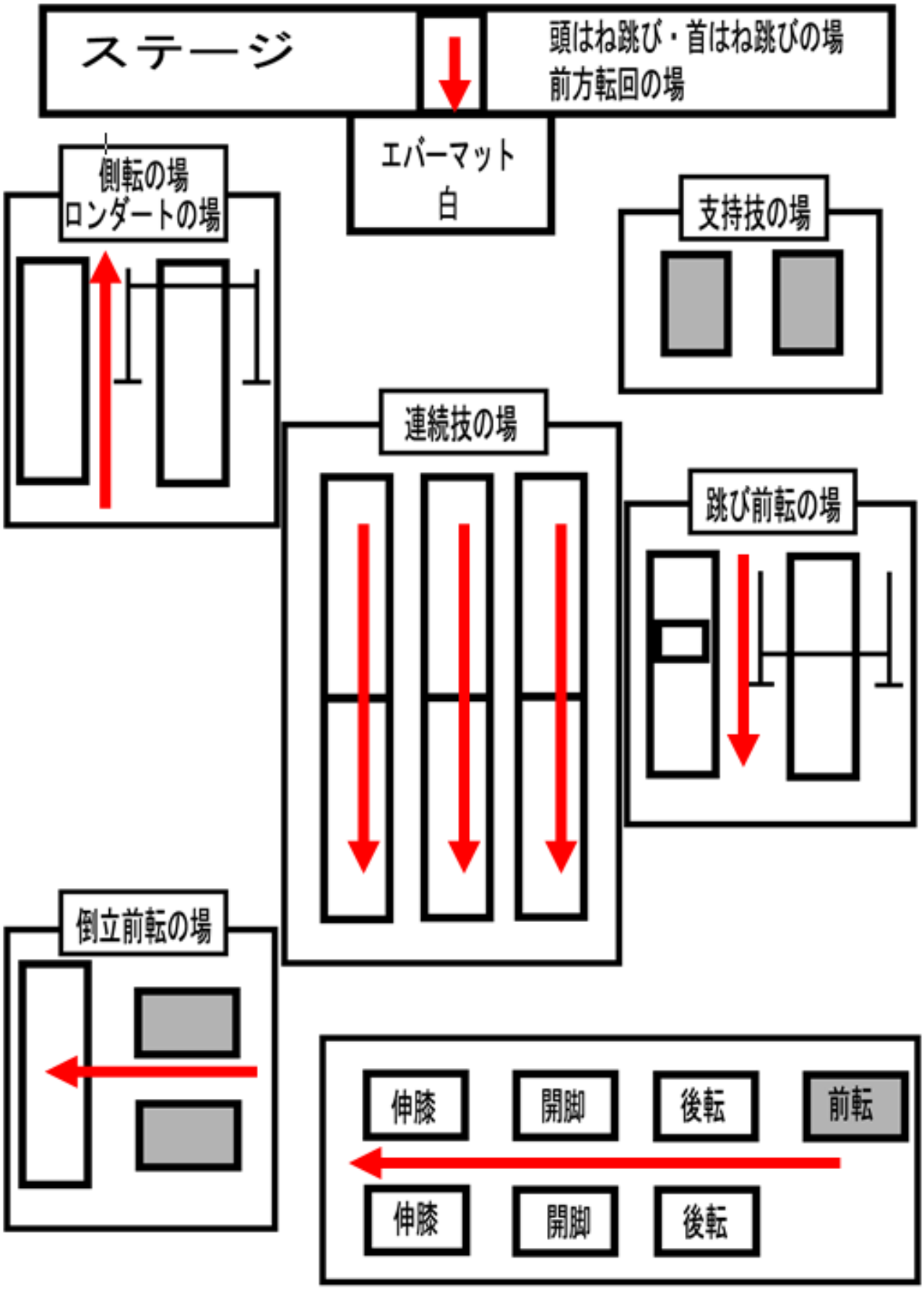
（２）　準備・資料

小マット１２枚、中マット１２枚、エバーマット１枚、跳び箱１段１台、踏み切り板、高跳び支柱２セット、ゴムのバー２本

（３）　展開

	学習活動	時	指導上の留意点及び支援の工夫	評価項目(方法)
導入	**１、集合、整列、あいさつ、健康観察** **２、準備運動** **慣れの運動・・・カエル倒立、カエル足打ち** **平行、補助倒立**	5分	○本時に必要な部位を確認しながら行う。	
展開	４、場の準備（グループで準備） ・場の確認（場の別紙）	4分	○場は毎時間少しずつ変える。本時に一番適切であると考えられる場を児童に与える。 ○それぞれの場の準備担当の確認をする。 ○グループは準備をするためだけのグループ。 ○児童が用具を運ぶ時には「○○を運んでいます」と声を出して運び、周囲に用具を運んでいることを知らせる。 ○自分の準備が終わったら遊んでいるのではなく、手伝いを行うことを伝える。また、やることがなくなったら、決められた集合場所をつくり、そこで座って待機させる。 ○準備ができたらそれぞれの場は何のために行うのかを確認する。	
	３、本時のねらいの確認 ・児童に２つの連続技を見せる。 A：スムーズではない連続技 B：スムーズな連続技 ・「どちらがよかったのか」「どうすればよいのか」を質問し、考えさせる。 【予想される児童の反応】 ・Bは足が余分に動いていない。 ・Bは最初から最後までが流れるようになっている。 ・Aは一回一回止まっている。	6分	○ただ教師が児童にめあてを与えるのではなく、どうしたらよいかを考えさせてからめあてを提示する。 ○どちらを目指せばよいのかを明確にしてからめあての提示をする	
	できるようになった一つ一つの技をスムーズにつなげて連続技をしよう			
	５、個人めあての確認 ・集合（学習カードを持って集まる） ・本時の個人めあてを、学習カードを見て確認する		○事前に児童が自分で考えた連続技プランを確認し、本時の個人めあてを立てさせて、場の使い方や使う順番を児童に考えさせる。（児童の話し合いの場面）	

展開	６、学習活動 **めあて１：連続技を成功させるために、一つ一つの技の確認や今できる連続技をする。（今できる技・すでにできる連続技をめあて１とする）** **めあて２：スムーズな連続技の方法や新たに挑戦したい技を見つける。（挑戦したい技・連続技など新たにやってみたい技をめあて２とする）** ～基礎的技能を身に付ける場～ 【前転・後転の場】 前転、開脚前転、後転、開脚後転、伸膝後転 【支持技の場】 片足バランス・Ｙ字バランス・一回転ジャンプ・ブリッジ 【側転・ロンダートの場】 側転、ロンダート 【回転技の場】 ヘッドスプリング・ネックスプリング、前方倒立回転 【倒立前転の場】 倒立前転 ～連続技を試す場、自己の課題を見つける場～ ・学習カードに書かれた技に挑戦する。 ・スムーズなつながりを見つける。 ・めあて２を発見する場 ７、発表会 ・試験の練習のつもりで行う。	15分 ８分	〇学習活動はペアで行う。ペアは能力ではなくランダムで教師が事前に決めておく。 〇めあて１とめあて２の時間の区切りは明確にはつけない。活動をしていく中でペアの児童同士が話し合って自分たちで切り替えるようにさせる。めあて１ばかりのペアにはポイントで声かけをする 〇マイクを使って指導に当たる。 ①マイクを使うことで遠くにいる児童にも随時声かけをするため ②マイクを使うことで教師が発した言葉を児童が自分の言葉のようにペアの相手に伝えるため 〇一つ一つの技能を段階的に取り組めるようにするために、踏み切り板や跳び箱を場に活用していく。また、段階的になるように、それらを外した場も作って取り組ませていく。 〇壁やペアを効果的に使って倒立技にも取り組めるようにしていく。 〇支持技は３秒間静止して成功とする。 〇できるようになった技をつなげて、試すことができるようにする場。ただし、めあて２を発見する場所とするためその場でずっと活動をしない。 〇試しの場を使うときには一人ではなく必ずペアで試しに来て、どうしたらもっとよいのかを話してから、またそれぞれの練習の場に行って取り組む。 〇お手本となる構成をしている児童には、全体に対してその都度発表してもらう。 〇発表会は試験に向けての練習の一部なので３人ずつ行う。試験は本単元全７時間中の４時間目に行う。	思◎連続技を行うために自分の課題を見つけ、スムーズな流れでプランを組んで、それに応じた場を選んで練習している。 〇連続技を行うために自分の課題を見つけ、それに応じた場を選んで練習している。 (行動観察)
整理	**８、片付け** ・役割分担をして、友だちと協力して素早く安全に片付けをする。 **９、整理運動** **１０、次時の学習内容の確認** **１１、あいさつ**	７分	〇準備の時同様、児童が用具を運ぶ時には「〇〇を運んでいます」と声を出して運び、周囲に用具を運んでいることを知らせる。 〇本時に使った部位を中心に、心身を和らげる。 〇次時の予告をし、意欲づけを図る。	


ステージ
頭はね跳び・首はね跳びの場
前方転回の場
エバーマット
白
側転の場
ロンダートの場
支持技の場
連続技の場
跳び前転の場
倒立前転の場
伸膝
開脚
後転
前転
伸膝
開脚
後転